

# 中学校 2~3 年生における語彙の深さの測定の試み

— 社会生活上重要であると思われる語句を用いて —

○須藤史晴<sup>1</sup> 須藤邦彦<sup>3</sup> 中知華穂<sup>4</sup> 小池敏英<sup>5</sup>

(東京学芸大学教育学研究科<sup>1</sup>) (世田谷区立砧小学校<sup>2</sup>) (山口大学<sup>3</sup>) (東京学芸大学連合学校教育学研究科<sup>4</sup>) (東京学芸大学<sup>5</sup>)

KEY WORDS: 語彙の深さ 語彙の広さ 漢字読字

## 目的

語彙には広さ breadth と深さ depth があり、深さについては読解との関連が指摘されているものの測定方法は確立しているとは言い難い。

須藤ら(2017)は、A 県 B 市立 C 中学校 2 年生を対象に、社会生活上重要だと思われる語句(以下「社会生活語句」)の意味理解テストを実施した。その正答率は、語句の心像性指数(以下「心像性」)との相関は低く、漢字単語の読み成績に關与する程度は小さかった。他方で意味理解を必要としない既知かどうかを問う語彙テストの正答率は、単語の親密度指数(以下「親密度」)と直線関係を示し、漢字単語の読み成績に一定程度關与していた。

本研究では中学校 3 年生に同様の問題を実施し、2 年生と比較検討を行い、もって社会生活語句の意味理解テストが語彙の深さを測定しうるものか考察する。

## 方法

対象: 東京都の D 市立 E 中学校 3 年生、計 117 名。手続き: 3 学期末に社会生活 70 語句(須藤ら(2017)の 40 語句に低心像 30 語句を追加)について、正しく説明している文を選ぶ。誤り文は中学 3 年の学習内容である中学校社会科公民的分野の内容を参考に、意味が誤っている「意味の誤り」、似たような意味の語句の説明になっている「類語の誤り」、似たような音の語句の説明になっている「音の誤り」の 3 種類用意した(表 1)。Amano et al.(1998)の方法で親密度をもとに選定した 20 単語(以下「親密単語」、表 2、無意味語 2 つを含む)を知っているかどうか答える。小学校 6 年生で学習する漢字の 20 の熟語を読む。調査と研究発表については学校長の承諾を得た。保護者の同意は学級担任を通して得た。

表 1 社会生活語句意味理解テスト問題例

語句	労働三権
正答	警察官、消防官などには認められていない。
意味の誤り	自由権、団体交渉権、団体行動権の3つ。
類語の誤り	労働組合法、労働関係調整法、労働基準法の3つ。
音の誤り	神奈川県・埼玉県・千葉の3つの権での労働。

表 2 親密単語一覧

低心像	高心像	無意味語
えび茶式部	敵討ち	胸引き
立錐の余地	疎遠さ	貝箱
皺首	取り入る	
二の矢	脂ぎる	
蔵払い	ダミ声	
ピタ銭	座いす	
妙味	ソーダ水	
基礎代謝	にせ札	
千客万来	手首	

## 結果・考察

中 3 の社会生活 70 語句の平均正答率は、中 2 の 40 語句の平均正答率よりも有意に高く、共通する 40 語句に限っていても同様であった(中 3 n=70; 61.0%, SD 13.0%, 中 2 n=40; 52.6%, SD 14.0%, 中 2 n=40; 43.2%, SD 11.8%)。公民的

分野の学習効果と推察される。

親密単語については、無意味語を 1 語でも「知っている」と回答した者を除いた上での平均正答率は中 3 で 8.54 個(SD 2.51, n=70)と、中 2 の 7.04 個(SD 2.92, n=80)よりも有意に高かった(p<.01)。発達的变化であると思われる。

親密単語の単語毎の正答率は中 2 と同様に中 3 でもその単語の親密度と高く相関していた(中 2; r=0.79, p<.01, 中 3; r=0.87, p<.01, 図 1)。他方で、社会生活語句の語句毎の正答率は中 2 ではその語句の心像性と全く相関していなかったが、中 3 では弱い相関が見られた(中 2; r=0.001, n=40, p>.05, 中 3; r=0.39, n=70, p<.01, 図 2)。共通する 40 語句に限ると有意傾向の相関であった(中 3; r=0.27, n=40, p<.1)。公民的分野の学習効果を背景に、語彙の深さを測定できていない可能性が示唆される。

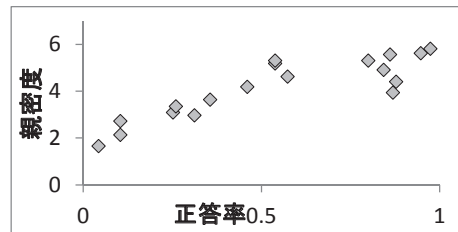


図 1 親密単語 親密度と正答率(中 3)

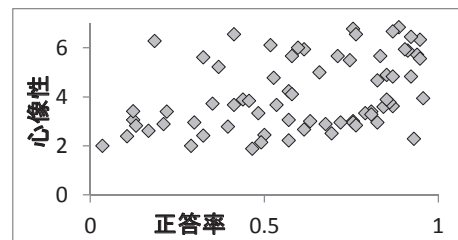


図 2 社会生活語句 心像性と正答率(中 3)

漢字学習困難群(漢字熟語読みテストで 10 パーセント以下以下の群)の生起を目的変数に、社会生活語句の誤り方を説明変数とし、二項ロジスティック回帰分析を行った。中 2 では音の誤り・無回答で有意なオッズ比(1.4; 1.3; p>.01; p>.05)を示したが、中 3 では無回答のみで見られた(1.2, p>.05)。

今後の課題として、社会生活語句意味理解テストの妥当性の更なる検討のため、他の検査との相関や Deane et al.(2014)のように大標本による項目応答理論に基づいた 3 変量の分析(3PL IRT)が考えられる。また、語彙の深さの発達の変化および学習による変化については、縦断的な研究が待たれる。

## 文献

Amano et al.(1998) Estimation of mental lexicon size with word familiarity database. Proceedings of ICSLP, 5, 2119-2122.

Deane et al.(2014) Creating vocabulary item types that measure student's depth of semantic knowledge, ETS RR-14-02.

須藤ら(2017) 中学生における語彙の深さの測定の試み, LD 学会第 25 回大会 web 論文集.(印刷中)

(SUTO Fumiharu, SUTO Kunihiko, NAKA Chikaho, KOIKE Toshihide)